

堀口一夫

昭和新山国際雪合戦実行委員長
ほりぐち かずお



Kazuo Horiguchi



ボランティアと選手と、 実行する委員長と。

昭和新山国際雪合戦大会

**最強のボランティアチーム
総勢400人のおもてなし**

その日、空はきりりと晴れ渡った。全国の地区ブロック予選を勝ち抜いてきた総勢2000人の選手団が続々と入場。目の前には、赤茶けた山肌から白い噴気をたなびかせる昭和新山。突き刺すような寒気に、闘志がたぎる。午前9時、昭和新山国際雪合戦大会の開会が宣言された。花火の合図とともに勇者たちは、白銀のコートへと散っていく。

実行委員長である堀口一夫氏の姿を追ってみた。開会式会場から大会本部に戻ると、休む間もなく来賓の対応に忙しい。引きも切らずに来賓が訪れる。お辞儀、名刺交換、談笑。一人ひとりにていねいに応じる堀口氏。15分後、ダウンコートを着込んで、試合会場へ急ぐ。売店ボランティアの婦人会に、救護班のドクターに、車両整理係の方に、すれ違う人々へのあいさつを忘れない。熱々の雪合戦鍋をかきこんでいる選手にも「おいしいかい？」と声をかける。とにかく、あいさつ。どこでも、お辞儀。直立不動でいることの堀口氏を見ることは、まずない。

「大会実行責任者になって10年